

8．河道特性

米代川は大館市や能代市を流れ、流域面積4,100km²、幹川流路延長136kmの一級河川であり、流域面積は全国で14番目、東北で5番目に大きい。

米代川は、花輪・大館・鷹巣の3つの盆地と河口部低平地の能代平野を流れており、3つの盆地出口付近の下流が極端に狭まる狭窄部となっている。

また、河口から大館市扇田橋までは、堰等の河川横断工作物がなく、連続した水面が形成されている。

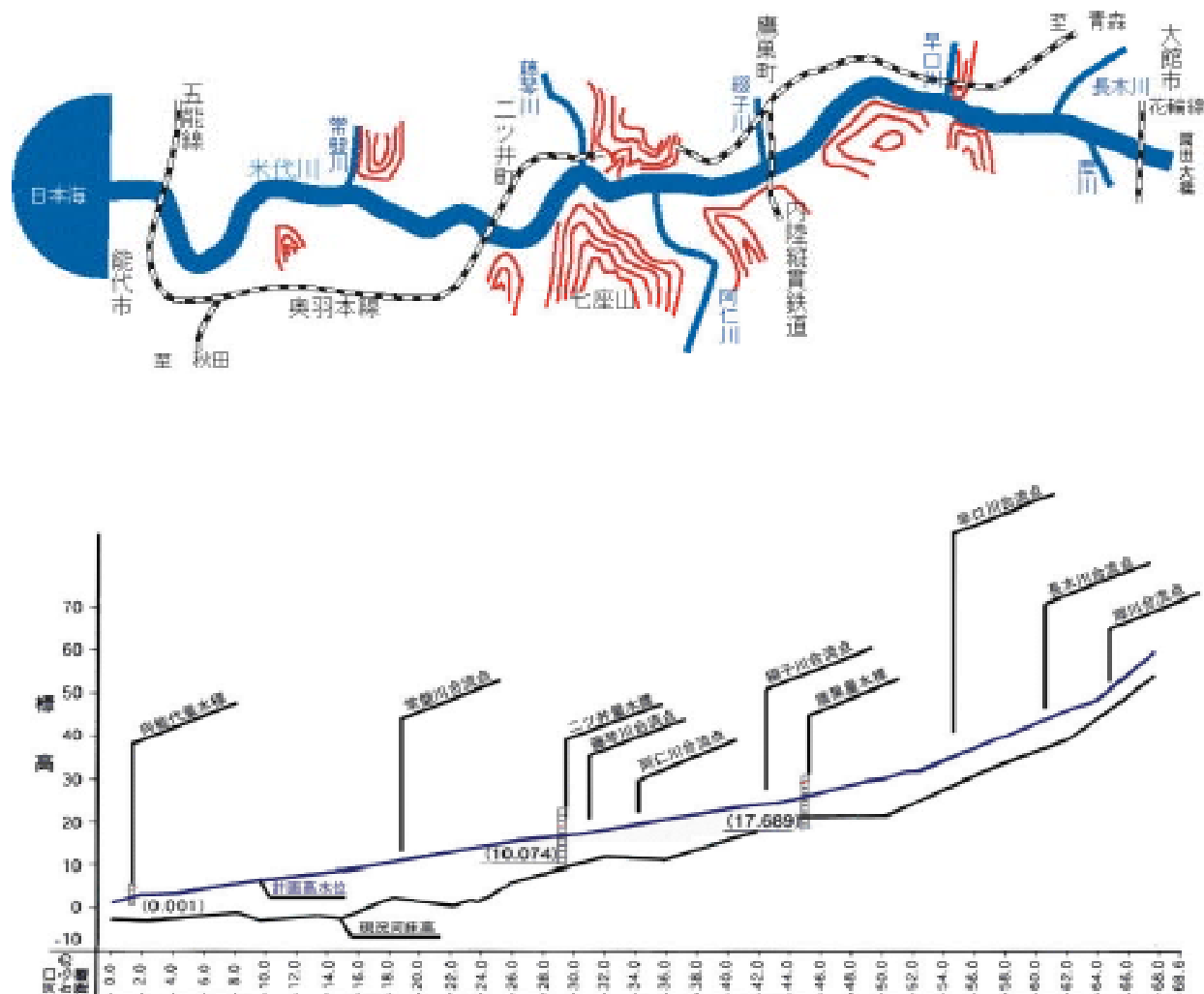


図8-1 米代川縦断及び平面概要図

(1) 上流部

米代川の上流部は標高1,000～1,500mの奥羽山脈である。奥羽山脈はさらに北部には十和田火山地、東部は安代山地、玉の宮山地、南部に八幡平火山地の各山地に分けられる。この西側には花輪盆地が広がり、さらに高森山地、三方高山地、森吉山地へと連なる。

源流から花輪盆地に至る米代川上流部では、河岸段丘が発達し掘り込み河道となっており、浅瀬、早瀬、平瀬、淵が見られる。また、河床は粗礫で構成されている。



【上流部】

出典：能代工事事務所資料

源流から花輪盆地に至る上流部。花輪盆地では大湯川等と合流する。河岸段丘が発達し、掘り込み河道となっている。

(2) 中流部

狭窄部を介して東西に細長く広がる大館・鷹巣の各盆地のほぼ中央を流れ、連続した瀬と淵及び中州が存在する。河床勾配は約1/1,000であり、川幅は300m程度となっている。

また、河床材料は中礫や細礫で構成され、各盆地の間の狭窄部は岩盤が露出している。



【大館盆地】

出典：能代工事事務所資料



【狭窄部（田代町）】

出典：能代工事事務所資料



【鷹巣盆地】

出典：能代工事事務所資料

【中流部】

狭窄部を介して東西に細長く広がる大館・鷹巣の各盆地のほぼ中央を流れ、連続した瀬と淵及び中州が存在する。各盆地の間は岩盤が露出し狭窄部となっている。米代川は鷹巣盆地を経て能代平野に流れる。

(3) 下流部

下流部は、二ツ井町の富根付近から勾配が緩やかになり、河床勾配が約1/5,000、川幅が350m程度である。河口から4km付近には連続した蛇行部と、寄州や中州が出現し、多様な河川形態となっている。また、河床材料は主に砂や細礫で構成されている。

河口部には砂州があり、とくに冬期に発達する。感潮区間は河口から6km付近までとなっている。



【下流部（能代市）】

出典：能代工事事務所資料

川幅が広く勾配が緩やかになる下流部。能代平野を蛇行しながら日本海に注ぐ。



【狭窄部】

鷹巣盆地と能代平野の間の二ツ井町の狭窄部。
米代川はこの狭窄部を経て能代平野に流れる。

出典：能代工事事務所資料